

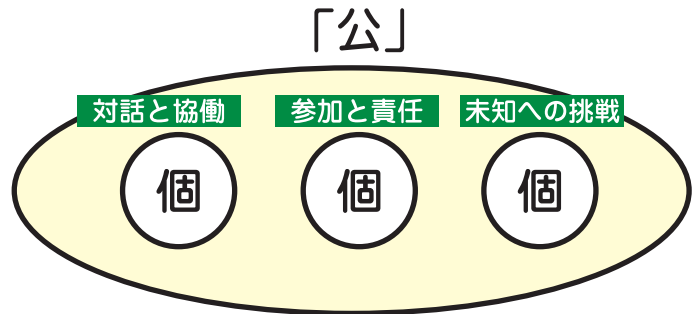
みちぶしん 未知普請活動の推進

公共事業は誰のものか…地域との対話活動の取り組み

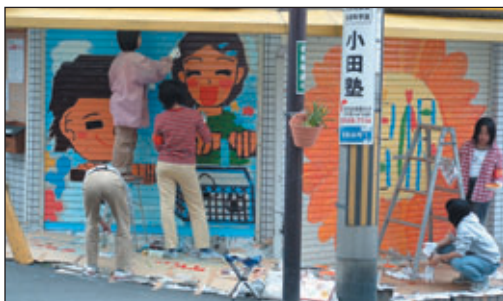
社会が成熟し、価値観の多様化が進むなか、公共事業のあり方にも変革が求められています。

普請(ふしん)とは「普く請う(あまねくこう)」と読み、「大勢の人々に労力をお願いする」という意味の禅語です。その起源は鎌倉・室町時代にさかのぼり、鎌倉時代には「道普請」という言葉が盛んに使われていました。近畿地方整備局では、「道」に「未知」をあて、道路だけでなく河川や公園等の公共施設も含め、未来を切り拓く意も込めて、「未知普請」精神を広く育むべく、平成14年度から「対話と協働」、「参加と責任」、「未知への挑戦」の3本柱をもって「未知普請」活動を推進しています。

平成16年度は、引き続き啓発活動を推進するとともに、近畿地方整備局と各府県が緊密に連携し、対話型行政に向け、積極的な活動を推進します。



水陸両用バスを用いた「未知普請」の啓発活動



豊中市曾根地区
子供達によるシャッターペインティング



都島クリーン作戦



みちぶしん子供パトロール隊 御堂筋



五条東山地区 ワークショップの様子